

願成寺報

令和五年十一月三十日

〒四四〇・〇八一二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

報恩講のご案内

まだ、病院・施設等で感染対策が厳しいです。残念ながら本年も縮小開催と致します。

・暖房を強力にして、換気には配慮します

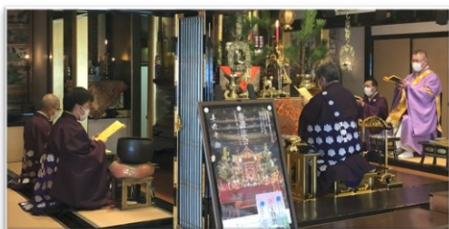
・お斎(昼食)と雅楽は中止します

午前・午後共お参りで昼食にお困りの方は
ご相談下さい

聖人のご遺徳を嘆じ、その教えに学びます。

念仏の姿を確かめ合うようにお参りしませんか。

長い伝統のある、真宗寺院で最も大切な行事です。



十二月 七(木) 午後一時 餅つき・草取り

十二月 九(土) 午後一時半 法要・法話 岡崎市浄泉寺 戸田栄信師

午後三時半 お斎(喜戒)

午後四時 法要・法話



十日(日) 午前十時 法要・法話 西川舜優師

午後一時半 講談のような説話説教

午前十一時 お斎(昼食)



念仏成仏是真宗

『仏説無量寿経 卷下』は、第十七・十八願成就文から始まっています。

十方恒沙の諸仏如来は、皆共に無量寿仏の威神功德の不可思議なるを讃歎す。あらゆる衆生、その名号を聞きて、信心歓喜せんこと乃至一念せん。

至心に回向したまえり。

彼の国に生れんと願すれば(願生彼国)、すなわち往生を得、不退転に住せん。ただ五逆と正法を誹謗する者を除く。

けれど、名号を称え聞いても「信心歓喜」「願生彼国」の心がなかなか起きません。

『歎異抄・第九条』で、唯円房が親鸞聖人にこの問題を問うています。

「それは煩惱の仕業だから心配ない、煩惱凡夫の為の名号だから、逆に頼もしく思うべきである」煙に巻くようなズルい答えですが、唯円は納得したようです。

何故か。

唯円はこれを諸仏讃歎の言葉と聞き、「功德の不可思議に領いたのでしよう。

唯円の問いは「威神功德の中で自身を尽くしたい」の願いに発出しています。

唯円は無自覚の内に信心歓喜し、聖人の聖人たる背景に触れていたと思います。

念仏を称え聞いても特別なことは起きないのかもしれない。

けれど念仏は、平凡や失敗の生活にこそ意義がある、と働きかけます。

諸仏の讃歎は「私もそうだったけど…大丈夫」と聞こえてくる筈です。

聞こえたら、善悪の評価や疑いなどの思議(いはからい)を止めて、

諸仏讃歎の威神功德に励まされながら、次の一步を踏み出しましょう。

その一步は、仏が自らを然しむように、往生成仏への歩みとなるでしょう。

念佛成佛コレ真宗 万行諸善コレ仮門

権実真仮ヲワカズシテ 自然の浄土ヲエゾシラヌ

《善導禪師和讃・親鸞聖人》

● 阿弥陀経ノート⑩ 正宗分・勸念仏・現当利益

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

舍利弗、汝が意に於て云何。何が故ぞ名づけて『一切諸仏所護念経』と為す。舍利弗、若し善男子・善女人ありて、この諸仏所説の名及び経の名を聞かん者は、この諸の善男子・善女人、皆一切諸仏に共に護念せられる所と為り、皆阿耨多羅三藐三菩提を退転せざることを得。この故に舍利弗、汝等皆、当に我が語及び諸仏の説きたまう所を信受すべし。

舍利弗、若し人ありて已に発願し、今発願し、当に発願して、阿弥陀仏の国に生れんと欲する者は、この諸の人等、皆阿耨多羅三藐三菩提を退転せざることを得、彼の国土に於て、若しは已に生れ、若しは今生れ、若しは当に生れん。この故に舍利弗、諸の善男子・善女人、若し信ずることあらん者は、应当に発願して彼の国土に生るべし。

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

- ・『……経』 一切諸仏により護念せられる経。この阿弥陀経のこと。
- ・諸仏諸説名 諸仏成仏の所以たる南無阿弥陀仏の名号の事。
- ・聞かん者 名号の徳は、称えるよりも聞かれるところに本質がある。
- ・阿耨多羅… 仏道行者が人生の究極の目的とする無常の覚り。完全無欠で平等円満を悟る智慧。真理を悟った境地。生死／自他の区別を越えさせるはたらきか。
- この節では「諸仏と同等の覚り」と読むべきか。
- ・退転せざる 忘れたり、失つたりしないこと。
- ・信受 釈尊の説と諸仏の声を聞き、「念仏成仏の教え」に頷くこと。
- ・已／今／当 過去／現在／当来（当に来つつある時）、未來／未だ来ぬ時）。
- ・発願 本願の名号を聞き信じて、浄土に生まれたいと願うこと。
- ・信願行 願生浄土の生活（行）は、必ず往生浄土の道を歩む。

・成仏とは

諸仏を感じて促され、諸仏の所以である阿弥陀仏の功德に目覚めた者は、既に誰かを仏として導く一員となっているのに違いない。その人の人生や姿が、何時、誰に、どう響くかを選ぶことは出来ない。けれどその人自身には、その目覚めをもたらした過去の全てや、目覚めた今と、そして諸仏と共に歩み始める未来に輝きが恵まれて、その輝きを失わないと確信するだろう。煩いや悩み、失敗をも縁として、逆に諸仏の護念を確かめていく道が開かれていくのだ。

新しく奇跡を求めるのではなく、既に奇跡に溢れた世界だと、仏を見出すように歩む姿が往生人の姿であり、成仏の本質なのだと思う。

・聞名不退

例えば、煩惱の心では絶対に許せない人を懐かしいと思いつくことがある。それは煩惱の外側からの働きによって起る。「煩惱」の言葉は、その外側があることを知らしめている。失敗や罪の意識の重圧は苦しい。その苦は、逃れようとするほど増大するだろう。その「苦」にも外側がある。その外側からの働きかけがあれば、その苦に意義を見出し、苦を荷っていく覚悟が決まるかも知れない。その覚悟は失敗や罪を浄化していく道を一筋に指し示すだろう。

煩惱の心で造る世界の、その外側を無量の諸仏が其々の姿で囲んでいる。その諸仏が念じ合う本願の世界から届けられたのが南無阿弥陀仏の名号である。その名は、煩惱のまま諸仏と響き合う手懸かりとなるだろう。聞くべし。

・発願往生

名号を称え、その響きを「煩惱」への働きかけと聞き留めた者は、禍の中で仏と出遇い、福に溺れない生き方を恵まれる。「極楽」と書かれた浄土は、逆に苦のない世界ではないのだと思う。「苦」をも縁に、互いを念じ合える世界が極楽なのだ。その極楽を目指し、いのちを尽くしたいと願うべきである。

創作・摩訶迦葉の頭陀行

すし詰めの法座に彼が参加した時、彼の周りはポツカリと穴が空いた様になった。釈尊はその様子を見て、摩訶迦葉に気づき、自分の隣に来て座るように招いた。しかし、迦葉は傍まで進んだが、同座することを固辞し、短い問答を交わした。ただ、釈尊の手にある一輪の花だけがその内容を聞き、大衆には分からなかった。

「迦葉よ、姿は汚いし、匂いが酷いぞ、身を清めて来ようとは思わなかったのか」「一目拝顔して旅に戻ろうと思っておりました故。旅には、誰からも褒められないこの姿が都合がよいのです。獣も逃げるので安心だし、この姿だからこそ近づける相手があります。私は、余人では拓かれぬ世界を、生活の場としています」

「既に阿羅漢であり、もう老齢なのだから、頭陀の苦行は止めて、私の傍で、私を支えながら、私の在り方を習ってはどうか。私の着ていたその糞掃衣も、もうクタビレ切っているではないか。互いの衣服を脱いで交換した、あの若かった頃が懐かしいのお。隣に来てくれ、少しの間でも。昔話で温まろうぞ」

「これは世尊の言葉とも思えませぬ。世尊こそ色々に飾られて、堅苦しくて、クタクタなのではないですか。世尊と私では種も畑も違います。世尊と同じ花を咲かせる道理はありません。頭陀・乞食が苦行だったのは、世尊と出会う以前の話です。あの時、世尊の覚られた法を授かり、私の人生の灯としてからは、もう苦行ではありません。この灯で照らし合える世界を拓けるように、出遇いを慶び、発見に心田を耕しながら、気ままに旅を続けております。世尊は、私が羨ましいかも知れませんが、代わることは出来ません。たとえ寂しくとも、世尊は世尊として在り、私には私の旅をお許し下さい」

二人は、暫くその花の美しさの由来に想いを馳せた後、微笑みを交わし合った。

「この信・願・行を円満に具足した大迦葉こそ真の仏弟子である」
釈尊は、それだけを大衆に伝えて、法座を終えた。

大衆はチンプンカンプンであったが、各々に『何を信じ・何を願い・どう行じるか』と問い直しながら散会して行った。

〈「摩訶迦葉」のWiki検索より創作〉

少欲知足 もったいない



ソテツが多く、の寺に植わっていて、願成寺にも。その理由について、本当のことは分かりませんが、常緑で、やせた土地でも育ち、寿命が長い。樹高が低く落ち着いた雰囲気醸し出すらしい。葉の針が痛いけど「手間要らず」が有難い。

和顔愛語 ようこそ ようこそ

時々、ハクビシン？が庫裏の天井をドタドタと駆けて本堂に入り、お参りします。その後、糞尿をするように、本堂天井にシミが：これは「ようこそ」とは言えません。大工さんに頼み出入口を塞ぐ戦いをしていますが敵の信心も篤くイタチごっこです。

古い建物の維持もなかなか大変です。ところで、この獣の尿ですが、臭いがしません。初め雨漏りと間違えました、お気をつけ下さい。

恭敬三宝 おかげさま

本年秋の彼岸法会の一コマです。

いつもご案内が遅いのに、お集まり頂き恐縮です。この法座では聖徳太子のお話を聞きました。太子にもいろいろな苦勞があったようで、娑婆に苦勞はつきものという意味で、大聖も私たち凡夫も同じですね。

大切なのは「其処にどんな意義を見出すのか」という事。

苦勞を縁に、共に過ごす仲間とも、ご先祖様とも邂逅（遇い直し）できたら良いですね。



行事予定（令和六年）

本年度から順次コロナ前の様に勤めて参りたいと思っています。いつも案内が遅くて恐縮です、是非予定帳に書き写し下さい。

| | |
|--------------------|---|
| 一月 一日（月・祝） | 修正会 お正月のお勤めです 簡単なお節を準備します 午前十一時～ |
| 三月 二十日（水・祝） | 春季彼岸・永代経法会（成田屋紫蝶師） 落語と法話で楽しく過ごします お非時（昼食）あり 午前十時～、午後一時 |
| 八月 十五日（木） | お盆・歓喜会（住職） 法要・法話で亡き人を偲びます 軽食・花火あり 午後六時～ |
| 九月 二十一日（土） | 秋季彼岸・永代経法会（戸田恵信師） お馴染みの先生の情熱的な法話です お非時（昼食）あり 午前十時～、午後一時 |
| 十一月 三日（日・祝） | 本山納骨堂法会・団体参拝 本山へ貸切りバスにて団体参拝します 午前六時半ごろ集合 |
| 十二月 七日（土） 八日（日） | 報恩講 御開山聖人御恩に報いる法会です 二日目のみお非時（昼食）あり 一日目 午後一時半～ 二日目 午前十時、午後一時半～ |
| 開催日変更の場合あり | |
| 二～十二月 毎月一日 | 月例会 毎月一日 午後二時～ 日時変更の場合があります 寺にご確認下さい |

後記

○「懐かしい」が答えだ

十一月、門前の黒板に右の言葉を書きました。

答えだけ書いて、問題は読んだ人に考えてもらおう作戦です。

だって、答えを考えるより、問題を考える方が自由で面白いのだから。

人生だって、答えは「往生」と決まっただけ、

それまでの課題を其々に工夫して、創造的に歩んでいるのでしょう。

○飼っている雌犬が十六歳になりました。

人間に換算すると九十歳くらいのリツパなお婆ちゃんです。

身体にはイボが目立ち、目は白内障で何処まで見えているのか判りません。

耳も遠いようで、大声で呼んでも返事をしません。

けれどお菓子の袋の音には敏感に反応する、どういう事だろう…

食べる時と、散歩以外は大概寝ていて、最小限の省エネ生活です。

散歩は大池公園まで往復約二キロをクンクンしながら一時間程歩きます。

このクンクンがとても大切なようで、行ったり来たり…

忙しい時、疲れている時にはイライラします。

「クンクンをして何になる」

「本能だから止められません」

「その本能に意味はあるのか、今の生活の役に立つのか」

「それは犬の私の問いではありません」

「肉球の間のイボは痛くないのか、そんなに頑張らなくても良いのでは」

「痛いけど大丈夫です、頑張っている積りはありません、お氣遣いなく」

○寝息が苦しそうな時、死ぬんじゃないかと心細くなります。

クンクンが出来なくなったり、その姿がなくなったり、

私はそのクンクンを懐かしく思い出すでしょう。

そして、クンクンの姿に支えられるかも知れません。

いのちの意味は、誰かの「懐かしい」の中にあるのだと思います。